



今月の一枚

開花をまつ蓮のつぼみ (6月25日、順慶寺本堂前にて 岡川経康氏撮影)

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2021年(令和3年)

7月号

VOL.333

◆◆ 境内のハス ◆◆

毎年、順慶寺境内にある大きな鉢にはハスが咲くが、いつも泥の入れ替えや根の張り替えなどの世話が大変な作業である。この作業を総代 OB 有志の方がお世話をされている。今年は、初めて白蓮華が花を咲かせそうだ。今から開花が楽しみである。

◇ 執着が現実を見失わせる ◇

今月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』(『法句経』)の二箇所から選びました。

「人が花を摘むのに心を奪われている間に
死は人をさらっていく。
洪水が、眠っている村を
押し流すように」

(四十七偈)

「子供や家畜のことに気を奪われ
あれやこれやに心が執着している人を
死はさらっていく。

眠っている村を大洪水が押し流すように」

(二八七偈)

昨今のコロナ禍が始まって、はや一年以上
新聞やテレビでも連日コロナ報道がなされ、
否が応でもコロナの情報が入ってきます。

その中でも、二〇二〇東京オリンピックの
開催に関しては、多くの国民がコロナ感染に
対する不安を感じている中での開催となり、
安全安心な大会を開催できるか疑問視する向
きが多くあります。

そもそも今回のオリンピックは、東日本大



今月のブツダの言葉

あれやこれやに

心が執着するうちに

苦しみがしのびよる



若院のテーマカット NO.27



震災で傷んだ日本が復興した姿を世界に向けて発信し、多様性と調和を尊重し、未来への継承を目標とする意義深いものになる予定でした。しかし、高く掲げられた目標とはうらはらに、実は、商業主義が先行し、様々な政治権力が渦巻いていることが、コロナによって浮き彫りとなりました。

こうした事柄に執着や忖度そんたくし、忖度のないコロナのために、オリンピックの本来の意義も失われ、開催を心待ちにしていた、選手や国民の心だけが痛んでいく現実は、ただただ辛く苦しい限りです。

◆浄土を慶ぶ身◆

彼の法然上人は、民衆に称名念仏のみで救われることを説き、専修念仏を弘められました。

晩年、①瘧病を発症された法然上人は、高熱で生死を彷徨われるような事態にいたっても、

「浄土をねがう行人は、病気になるても、それを受け容れ、そのご縁をよろこぶべきだ」とおっしゃったといひます。

それほどに、浄土のご縁をよるこばれた法然上人でしたが、弟子達は、法然上人がよるこばれた念仏をなかなか理解出来ず、専修念仏を勧められる法然上人をよそに、言い争いが起こるようになってきました。

こうした状況を憂慮した、ときの関白・九条兼実が、法然上人を教

えをしつかりと残さねば、やがて浄土の教えもやがて違うものになってしまうのではないかと憂慮し、病氣から平癒した法然上人に、②「選択本願念仏集」を残すことを勧め、上人によって撰述されました。ただ、法然上人存命中に、この「選択集」を見る事ができたのは、ほんの僅かな弟子だけでした。

親鸞聖人は、この「選択集」の書写が許された一人として、法然上人の導きをまもり、生死の迷いに苦しむことを離れ、念仏する道を生涯の道としました。

健康な体に執着し、忖度のできない病に苦しんでいるうちに、やがて死んでいく身。こうした我が身を見るにつけ、平生から浄土をよるこぶ心を頂くことは本当に大切であると領かされます。

①【瘧病】瘧は、古来、寒さやふるえや高熱が一定の時間をおいて繰り返えされる病氣。周期的な特徴のある病状によって紀元前から中国で知られていた。古来、夏の風邪や山間の悪気などの外邪によって起こされるとされ、^{しゅう}瘧、^{かい}瘧、^か瘧など多くの病名が記載されていた。現代では蚊による感染症であるマラリアと考えられる。

②【選択本願念仏集】

浄土宗を開創した法然(源空)上人の主著で、一九八年(建久九)三月、法然上人六十六歳のとき九条兼実の懇請に応じて撰述された浄土宗の根本聖典で、十六章からなる。善導大師の浄土教義をたて系、自らの選択義をよこ系として、阿弥陀仏によって選択された本願念仏の要文を集めて、選択本願の真意を明らかにした。

裕福だった親から受けた田畑を、師匠・元明氏に従って諸所を巡り歩くうちに、田畑で収穫する暇もなく、次々と手放していったといひます。そして、始めたのが魚屋でした。吉兵衛が売りさばく魚の売り上げはあまりよくなく、日々の生活は楽ではなかったようです。それでも、足りるだけのものを頂けるだけでもありがたいと、「長者というものは何から何までチ

念仏を欲ぶ人
妙好人の世界
[第106回]
《味おうてくれ》
ものだねきちべえ
物種 吉兵衛
(14)

《裸になったら皆不細工じや》

堺の妙好人・吉兵衛。中くらい

元明氏に導かれた吉兵衛は、「いか程の金持ちの立派な旦那様やお家様やと申しても、生まれたままの裸になってみなされ、随分不細工な者や。お互いに着物を着せていただいて威勢も格好もついてあるのや。着物の良いの悪いの、なるべく不足を言わずに、頂いて着せてもらいや」と、ご縁で頂いたものに、不足を言わず、愚痴や怒りを増やすことのない生き方をしています。

「長者というものは何から何までチ

ンと揃い上がってあるのを長者という。どのような長者でも富には飽かぬとや。いくらあっても満足せぬものは貧乏人じや。たとい一升買いついても満足して日送るものは福人じや」といって、自分のことを満足して幸福をもらっている人と考えていました。

今年も境内の蓮の花が咲く季節になりました。

お寺とともに

蓮の花



今年も境内の蓮の花が咲く季節になりました。

泥の中からスツと真っ直ぐに伸びる蓮のつぼみは、清らかそのものです。

毎日境内に出は、「今日はどうか？」と眺めにいきますが、段々つぼみが高くなって大きくふくらんでくると、期待もふくらんできます。

こうして、花が咲くのを待っているときに、一番楽しいときでもあります。というのも、蓮の花は、美しい花が咲くと、わずか三日もすればハラハラと散ってしまうからです。つい欲が出て、咲いた花をみては、「この美しい姿を何とか留めおきたい」と不安で執着する心が、純粹に花を愛でる気持ちの邪魔をするのです。

蓮の花が美しい花を咲かせ、一杯の命を輝かせる姿に出会うご縁を大切にしたいです。

※今年も境内に初めて白蓮が咲きます。乞うご期待。

若院の成長日記
Growth Diary

《第十五回 学びの姿勢》

先日、親鸞聖人の生涯を学ぶ講義を受けました。

親鸞聖人が法然上人の弟子であったことは周知であると思いますが、法然上人のうわさを聞き付けた聖人は約百日かけて吉水を訪れ、その教えを吟味していたそ

生涯導いていた、たくさんになる師であつても、その教えを最初から妄信することにはなかつたのです。そこには私たちが見習うべき学びの姿勢があるので

順慶寺教化委員会臨時会議

教化検討委員会中間報告(一)

本年四月より、アフターコロナの教化のあり方を検討するために発足した、教化検討委員会。

六月までに三回の議論を重ね、各賛助会の現状の認識と、来年度以降のあり方について一定の方向ができたので、中間報告いたします。

《各賛助会の現状と問題点について》

(むつみ会)

- ・コロナのためコーラス等集会ができません
- ・(おたのしみ会)

- ・老院主催であったため、何をを行うか方針が立たない
- ・コロナのため集まりにくい

(助音講)

- ・練習したものを発揮する機会が少ないのではないか
- ・夜のみしか活動できない

- ・若い層をいかに取り込むか
- ・女性助音をどのようにするのか
- ・歴史の学習

(お勝手方)

- ・八人で新たにスタートするが、多くの人は初めてであるのでいきな

り本番は難しい。何か披露する機会がほしい

(真宗講座)

- ・夜の開催なので高齢者が集まりにくいのではないか(聴聞の方は変わらず五十名ほどある)

(慶楽ゼミ)

- ・専門的な勉強となるためこのような勉強会があるなど認知していただければ

(宗祖聖人御命日)

- ・若い人たちをいかに呼ぶか

《問題点についてフリートーク》

- ・お寺はみんなが集まる場であるためにはどうすべきか?
- ・時代とともにお寺は変わるべきなのか、だからこそ変わらない方がいいのか?

- ↓お寺が来やすいために我々はどうしたらいいのか?
- ・子供に対する教化も重要ではないか?

《委員から提案の解決の方向性》

- ・寺との関わりは親の世代とのつながりが大きい。しかし現代の人は家族の関わりが希薄であるた



順慶寺のアジサイ

め、子供が寺との関わりが遠のいてしまっているのではないか

- ・かつては地域の活動の中心が寺であった
- ・むやみやたらに人を集めればい

いわけではない。寺でなくてはできないことがあるのではないかと

(御内仏の充実)

- ・御内仏で日々にお参りすることが当たり前であった
- ↓御内仏について考える教化が必要ではないか

(寺カフェをつくる)

- ・寺カフェをつくって、農産物を持ち寄ると集まるのではないかと
- ・若い人が入りやすい。世代間をつなげる仕組みを考える必要あり

- (子ども会を再生)
- ・若院を中心に、十五年前まで続いていたかつての子供会を寺子屋として再開させる

- おつとめの練習
- レクリエーション、人形劇や映画鑑賞等の鑑賞会
- 宿題、勉強のサポート

以上 六月現在中間報告

6月度護寺会物故者

浄明院釋精伸

5月28日寂 鈴木 伸(80)

山ノ端組 鈴木正紀様の父

釋晴明

6月24日寂 石田晴生(76)

今川町 石田智彦様の父

浄光院釋正真

6月6日寂 塚本正重(91)

今川西組 塚本玄竹様の父

3名の順慶寺護寺会員のほうが生前の役割を終えられ、浄土におかえりになりました。合掌



編集部短信

◆故鬼頭真道氏に本山から弔詞ー順慶寺法務員として半世紀ほど務めてられた、観音堂堂主・鬼頭春一氏(法名真道)に本山・東本願寺より弔詞が下附された。

◆境内のアジサイ見頃終わるー山ノ端組の鈴木市成さんより株分けして頂いたアジサイが境内で満開となっていたが、六月中旬で見頃が終了。

◆アライグマにご注意ー昨今、近隣にてアライグマの目撃情報が相次いでおり、本堂の浜縁にもそれらしき足跡が発見されている。アライグマは夜行性で、夜に農作物や家畜を荒らし、凶暴な性格だとされているため注意が必要。



アライグマ

◆8月盆会は通常実施ー今年の盆会は通常実施する予定。参詣者のマスク着用をお願い、アルコール消毒など十分な感染対策を施した上で、8月7日(土)午後一時より法話を含めた法座を実施することとした。

編集雑誌

今年下半期に向けて多くの皆さんがワクチンを打たれたので、諸活動が近々再開できると思っておりますが、デルタ変異株の流行で今年度の再開が危ぶまれることになりました。今一度、腰を据えてお寺の将来のあり方を考える時間を頂いた気分です(住)。

緊急事態宣言も明け、大学の講義も対面に戻りました。遠隔授業も通学の時間がかからないので楽ですが、家では怠け気味になっていけません。乱れつつある生活サイクルも平常運転に戻さないと、と思うこの頃です(若)。



7月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	木		木-1
2	金		
3	土	コロナ対策により、諸活動は自粛中 今後、ワクチンの接種状況により 変更もあり得ます	
4	日		
5	月		
6	火		
7	水		
8	木		木-2
9	金	定例責役総代会(19:00、順慶寺)	
10	土		
11	日		
12	月		
13	火		
14	水	教化検討委員会(14:00、順慶寺)	
15	木		木-3
16	金		
17	土		
18	日		
19	月		
20	火		
21	水		
22	木		木-4
23	金		
24	土		
25	日		
26	月		
27	火		
28	水	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺にて内勤め)	
29	木		
30	金		
31	土		



7月行事内容 詳細

定例責役総代会

7月9日(金)

午後7時〜 順慶寺本堂

半期に一度、順慶寺の重要な事項を確認、決定するための会議、責任役員・総代会が開催されます。

今回は、令和三年度護国寺会計の中間報告、令和二年度順慶寺会計の決算報告などがなされます。また、コロナの状況を鑑み、令和三年度の下半期行事予定について検討をします。

教化検討委員会(第四回)

7月14日(水)

午後2時〜 順慶寺本堂

順慶寺の例会などコロナ後の教化事業において、様々な検討を加える教化検討委員会の第四回目が開催されます。

今回は、コロナ禍中、江戸期より本山を取りもってきた門徒の集まりである同行が、泉田地域、山ノ端地域をはじめ多くの地域で解散することとなったため、今後の本山のお取り持ちのあり方や、本山の事業などをどのようにしていくか、鋭意議論し方向を模索する予定です。

おしらせ

●下半期の月例会について

先月号にて、下半期の順慶寺における月例会の実施は、ワクチン接種の状況を見て、判断するとなりました。

ところが、昨今流行しているデルタ型コロナウイルス(インド型)は、感染力が非常に強く、ワクチン接種していても、感染するリスクがあると言われております。感染流行が収まらない現下では、諸活動の再開は難しいとの判断が、教化検討委員会にてなされました。

つきまして、今年度の月例会は自粛継続といたします。

●真宗夏期講座自粛

7月7日に今岡町乗願寺様にて予定されていましたが、富士松真宗教団・夏期講座ですが、コロナの感染状況が収束しないため、自粛することとなりました。関係者には別途自粛の案内があります。



じゅんこのときめき歳時記

みなさん、こんにちは。梅雨の真っ最中ですが大丈夫でしょうか。コロナでマスクをしなくてはいけないので、毎日大変ですね。

今年、コロナのために、法事のお斎がなくなり、代わりにわり籠弁当出されることが多いとお父さんが言っています。そう言えば、わり籠には、何故かエダマメが入っています。エダマメは、ダイズが青いうちに収穫したものがらしく、ダイズと同様にタンパク質が豊富。その他にも食物繊維、ビタミンB1、B2、葉酸、鉄、カリウムなどの栄養素があり、バランスがよいようです。

黙々と

枝豆食べろ 夕餉かな

早崎泰江

